

国立大学法人京都工芸繊維大学

環境安全報告書

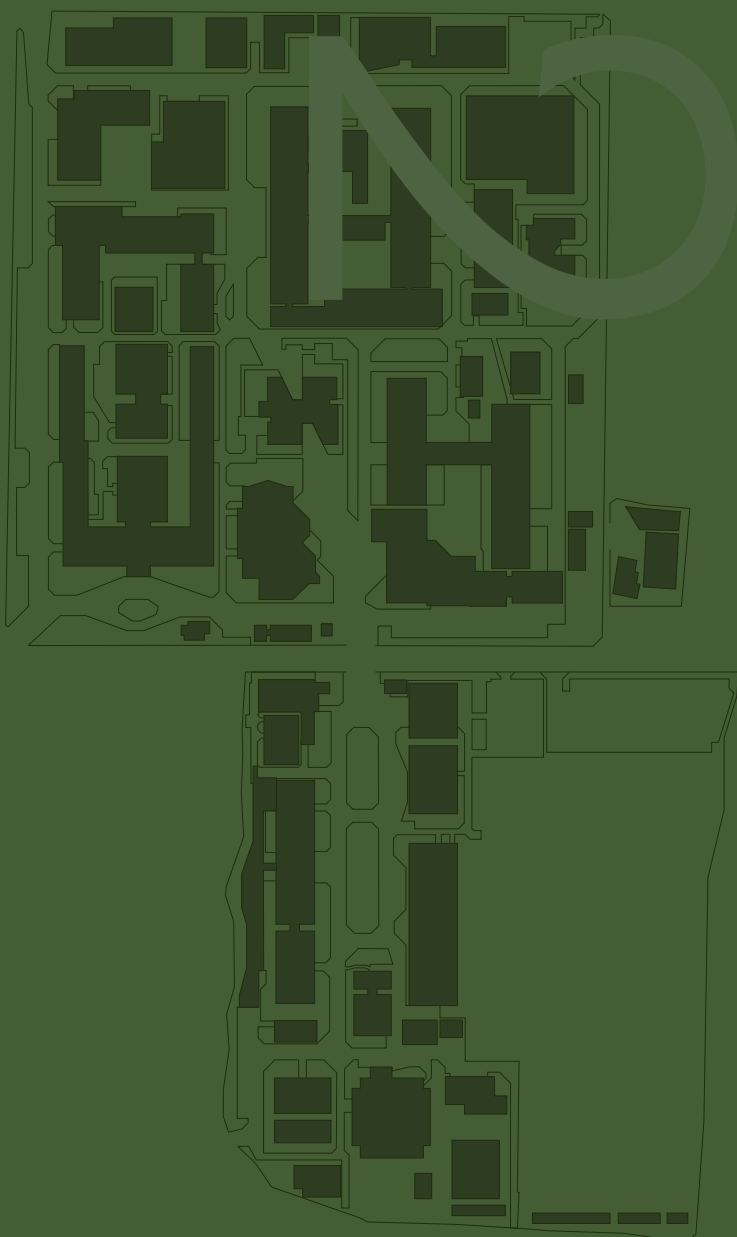
[ダイジェスト版]

Kyoto Institute of Technology

Environment and Safety Management Report

[Digest Version]

2022



2015年に国連総会で採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』には、SDGs (Sustainable Development Goals)として知られる、17のゴールと169のターゲットが提示されています。これを受けて日本政府は2016年に『持続可能な開発目標 (SDGs)実施指針』を決定し、2030アジェンダが掲げるゴールとターゲットのうち、優先課題として、5つのP (People, Prosperity, Planet, Peace, Partnership)に対応する8項目に分類、集約して示しています。すなわち、「People (人間)」では「1:あらゆる人々の活躍の推進」、「2:健康・長寿の達成」、「Prosperity (繁栄)」では「3:成長市場の創出、地球活性化、科学技術イノベーション」、「4:持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備」、「Planet (地球)」では「5:省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会」、「6:生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」、「Peace (平和)」では「7:平和と安全・安心社会の実現」、そして「Partnership (パートナーシップ)」では「8:SDGs実施推進の体制と手段」が優先課題として掲げられています。

しかし国連での決議にもかかわらず、世界では、2019年来パンデミックとなったCOVID-19、アフガニスタンやミャンマーなどの政情不安、さらに2022年にはロシアによるウクライナ侵攻もあり、人類にとって最重要である平和と安全・安心社会の実現が極めて困難となってきています。また火山の噴火や地震、熱波などもあり、日本でも毎年のように「かつて経験したことのない」という雨、風、雪などによる自然災害に見舞われています。地球の危機は鮮明となっており、SDGsが目指す2030年の達成は危うくなっています。

本学は、2030年に拘らず、また日々の状況に一喜一憂することなく、真に人類の持続可能性を志向し、地球温暖化問題やその対策としての脱炭素、カーボンニュートラルなど、産業や生活そのもののパラダイムシフトに必要な様々な研究・技術開発を通して人類の未来に貢献していかなければなりません。

その基盤となる研究・教育環境を常に意識し、より良い環境形成への行動を積み重ねていくための仕掛けの一つが本学の「環境安全マネジメントシステム (ESMS)」です。大学という事業所においてESMSを遵守し、環境安全課題に真摯に対応することで、社会的責任を果たしつつ、研究・教育環境の改善に向けた課題を抽出し、事故などを未然に防ぐことができるのです。

本学構成員一人ひとりが環境安全への関心を高め、大学のより良い環境の実現を目指していきましょう。そして日本、世界の持続可能性を高めることに貢献していきましょう。

京都工芸繊維大学長 最高管理者 森迫清貴



京都工芸繊維大学環境安全方針

基本理念

京都工芸繊維大学は、「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」を基軸として、自然環境保全と安全の確保に配慮した教育と研究を積極的に推進し、科学技術の進歩と持続可能な社会の発展に貢献する。

基本方針

(環境安全マインドの育成)

1. 環境保全活動及び環境安全教育研究を継続的に推進し、環境と安全を常に意識しながら主体的に行動する人材を育成する。

(環境負荷の低減)

2. 大学運営と教育研究活動から発生する環境負荷の低減と省資源・省エネルギー・資源の有効活用に努める。

(法令遵守)

3. 環境安全関連法令及び自主基準を遵守し、教育研究活動による環境汚染や健康障害などの事故防止に努める。

(継続的改善)

4. 環境安全目標を設定して、環境保全活動の推進とリスクの軽減に努め、継続的に改善を図る。

(コミュニケーション)

5. 環境や安全に関する情報を発信して、社会との相互理解を深める。

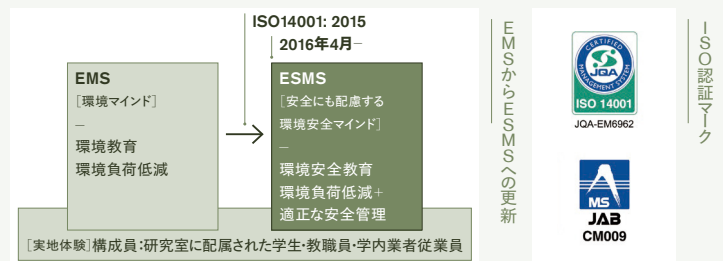
2019年4月1日 国立大学法人京都工芸繊維大学長 森迫清貴

環境安全目標

No	区分	目標
1	環境安全マインドの育成	・環境安全教育研究の推進 ・環境保全活動の推進
2	環境負荷の低減	・省エネ対策の推進 ・省資源対策の推進 ・廃棄物排出量の削減
3	法令遵守	・化学物質、高圧ガス、化成品の適正管理 ・実験廃液、廃棄物の適正処理 ・排水の適正管理 ・適正な作業環境の維持
4	キャンパス環境の保全	・キャンパス美化、緑化の推進
5	コミュニケーション	・社会に対する情報発信 ・地域社会との交流

環境安全マネジメントシステム

本学では「環境安全マネジメントシステム (ESMS)」を運用しています。環境安全方針において、環境だけでなく安全にも配慮した教育研究活動の活性化を宣言し、環境安全教育と実地体験による「環境安全マインド」をもつ人材の育成を重要な目標の一つとして掲げています。「環境安全マインド」とは、環境についての知識と環境改善を実施する実行力に加えてリスク管理など安全に配慮できる能力を指し、本学は、このような人材の育成によって社会に貢献することをめざしています。



マテリアルバランス

2021年度はコロナ禍による大学の活動制限が緩和され、2019年以前の状況に戻りつつあると推測されます。

INPUT

エネルギー

電力	102,168 GJ
ガス	30,145 GJ
灯油・軽油	41 GJ

事務用品・物品等

紙(A4換算)	2,908 千枚
グリーン購入法 特定調達品目	142 品目

化学物質

PRTR法対象 化学物質(主な物質)	4,964 kg
-----------------------	----------

水

上水	22.1 千m ³
井水	40.5 千m ³

OUTPUT

温室効果ガス

二酸化炭素	5,184 t
-------	---------

廃棄物

一般廃棄物	170.4 t
一般廃棄物	91.9 t
古紙	78.5 t
産業廃棄物	396.3 t
産業廃棄物	336.3 t
感染性廃棄物	0.3 t
資源ごみ(ビン・缶・PET等)	59.8 t

特別管理産業廃棄物

有機廃液	11,291 L
無機廃液	672 L
固形廃棄物	1,177 Kg

水

下水排水	57.4 千m ³
------	----------------------

教育研究活動

RECYCLE

廃棄物

一般廃棄物(古紙)	78.5 t
産業廃棄物(ビン・缶・PET等)	59.8 t

総エネルギー算出については、環境報告書ガイドラインの算定式に従いました。また、CO₂排出量は京都市地球温暖化対策条例に基づき報告した値です。

京都工芸繊維大学
環境安全報告書 2022
目次

0 はじめに

1 環境安全マネジメント

2 環境安全教育・研究活動

3 環境コミュニケーション

4 環境安全管理の取り組み

5 安全衛生管理の取り組み

第三者意見

環境報告ガイドライン2018年版との対照表

発行

2022年(令和4年)7月

編集

環境科学センター・施設環境安全課

京都工芸繊維大学

環境安全報告書掲載ページURL

https://www.kit.ac.jp/uni_index/environment-policy/report/



国立大学法人 京都工芸繊維大学

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町



京都工芸繊維大学
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY